

物理／仮想サーバーの 混在環境で、確実な バックアップ体制を構築



今日の企業にとって、データは最も重要な資産だ。複数のサーバーOSやデータベース基盤が混在し、物理／仮想サーバーを併用する環境下で確実なバックアップ体制を構築するには、ソリューションの選定から設計に至るまで周知のノウハウが必要になる。ジヤトコ株式会社（以下、ジヤトコ）は兼松エレクトロニクス株式会社（以下、KEL）にソリューションの提案と評価を依頼。Veeamを採用して環境を刷新した。旧システムより堅実で使いやすく、総コストを約4割削減することに成功。高い拡張性とセキュリティを手に入れた。

旧製品のサポート終了で新体制へ 製品の提案と評価を依頼

ジヤトコは日本を代表する自動車向け変速機メーカーだ。ステップATやCVT、ハイブリッド車用トランスミッションなど、幅広い製品を生産している。自動車の電動化が進む中で、競争力の高い独自技術を活かしながら新たな価値を創造している。

開発、設計、生産、購買、品質などのデータは、同社の大切な資産だ。BCP（事業継続計画）や法令順守といった面において、データ保護の重要性は高い。また、品質問題が起きた際に、製造や開発まで遡って原因を究明できるトレーサビリティの観点からも、データのバックアップには万全を期す必要がある。

これまで使っていたバックアップソリューションがサポート終了となり、新たなシステムの構築が必要になった。そこで、2021年7月頃から検討を始めた。

まずは要件を整理した。同社のシステム環境はWindows ServerとLinux、データベースにはOracle DatabaseとMicrosoft SQL Serverが混在している。物理サーバーもあれば、VMwareで動く仮想サーバーもある。対象サーバーは約200台。この環境において、データを確実にバックアップ、リストアできることを第1の要件とした。

第2の要件は、操作性と拡張性だ。操作しやすく、長く使えるソリューションを目指した。そこで、老朽化した基幹システムの更新で数年前から付き合いのあったKELに、製品の提案と評価を依頼。そのアドバイスを基に検討し、2021年11月に「Veeam」の採用を決めた。

Jatco

The mission is passion.



■ 商号

ジヤトコ株式会社

■ 設立

1999年（平成11年）

■ 住所

〒417-0001
静岡県富士市今泉700番地の1

■ 従業員数

11,800名
※グループ連結 2023年3月末時点

■ 事業内容

自動車用変速機（CVT/AT）・パワートレインの開発・製造。

URL: <https://www.jatco.co.jp/>

課題

旧来のバックアップソリューションのサポートが終了し、新たな体制が必要になった。物理／仮想サーバーが混在する環境下で、安定かつ確実にデータを保全できることを第1要件、操作性と拡張性を第2要件とした。

解決策

Veeamを採用し、新たなバックアップ体制を構築。物理／仮想サーバーの基盤ごとに分けてシステムを設計し、データ容量がいっぱいになった場合はクラウドへ低コストで拡張できる仕組みを完成させた。

成果

初期投資、中間費用、保守費用を含む総コストを約4割削減。バックアップサーバーからデータをファイル単位で容易にリストアできる環境を手に入れた。ユーザーの評判も良く、セキュリティをさらに強化する準備が整った。

「兼松エレクトロニクスの評価が役立ちました。Veeamを含む3製品を検討しましたが、どれも同一の基準で公平に評価されていました」と、ジヤトコの土屋敦氏は振り返る。特定のメーカーと関係があり、売りたい製品を押しってくるベンダーが多い中、KELは中立的な視点でユーザーの利益を最大限に考えてくれたと話す。



いる。例えば、いずれ工場モノのインターネット(IoT)を導入すれば、バックアップのデータ容量が一気に増える可能性もある。ビジネスの先行きが読みづらい中で、将来必要になるデータ容量を予測することは難しい。

かつてはバックアップ対象のデータ量が増えると、ストレージを増設して対応するしかなかった。Veeamの利点は、汎用的なサーバー機材でも問題なく使えるうえ、クラウドへの拡張が可能なことだ。データ容量を低コストで柔軟に増設できる。

の保守費用などを合わせた総コストを、約4割と大幅に削減できる見通しだ。

また、Veeamはコンソール画面が見やすく、操作も容易なので運用者の評判も良い。

ジヤトコは主要なシステムのバックアップをデイリーで実施している。また、セキュリティやシステム上の問題が起きなくても、例えば開発者がシミュレーションに必要なデータをバックアップサーバーからリストアして取り出すようなケースがある。このため、操作が容易で安定しているVeeamの利点は大きい。

今回、ジヤトコはKELの協力を得てプロジェクトを期待通りに終えることができた。次のステップとしては、バックアップデータの暗号化など、セキュリティ面での強化を図る考えだ。「バックアップはセキュリティの要です。何が起きても業務を継続させるために、データを守り通す必要があります」(小林氏)。データ保全の重要性はますます高まるという。

「兼松エレクトロニクスのプリセールスと実際の構築を行うチームの連携は非常に良く、大きなトラブルはありませんでした」(小林氏)

かつて、プリセールスの対応が良くても、そこで話した内容が実行チームにしっかりと伝わっておらず、苦勞した経験があるという。KELはそうした心配がなく、満足度の高い結果を得ることができた。今後もKELと連携し、バックアップ体制のさらなる強化を目指す。

柔軟性と拡張性を兼備 容量の追加もクラウドで対応

バックアップの対象となる業務システムには、ジヤトコがAクラスと呼ぶ基幹システムを中心としたサーバー群、Bクラスと呼ぶサーバー群、そしてインフラ関連のサーバー群と、大きく3つのグループがある。すべてオンプレミスだ。

Veeamのバックアップサーバーは、物理基盤や仮想基盤ごとにProxy Serverを分けて構築した。基盤ごとに機能やセキュリティを分けて管理しているため、バックアップも同じ区分で構築する方が運用しやすいからだ。また、NetAppサーバーの容量がいっぱいになったら、ストレージを追加せず、日本マイクロソフトのパブリッククラウド「Azure」に低コストで拡張していく設計にした。

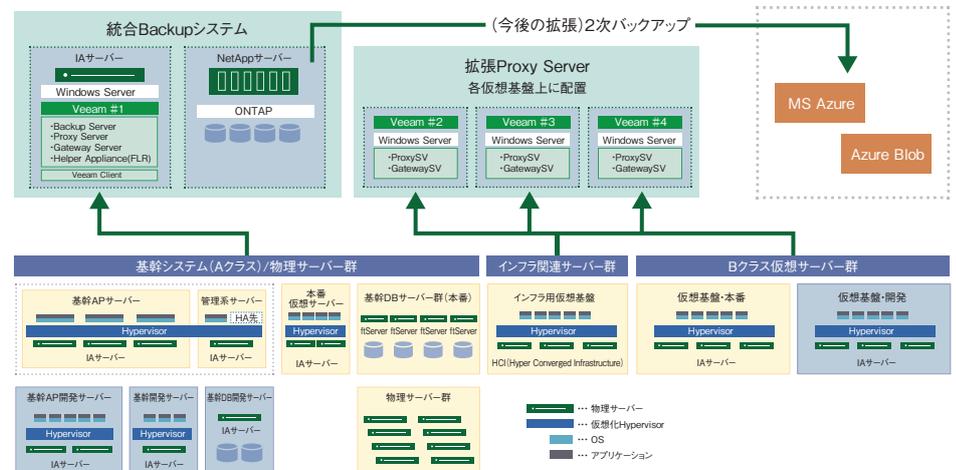
「Veeamは様々なタイプのサーバーが混在する環境下でも安定性が高く、エラーになることはほとんどありません」と話すのはデジタルソリューション部 主担の小林智央氏。「どの製品でもデータのバックアップは取れますが、戻す際に条件があることが多いです。その点、Veeamは自由度が高く、ファイル1個単位で容易に戻せます」。

ジヤトコはいま、DXに本格的に取り組んで

総コストを4割削減 組織間の連携もスムーズに

今回のリニューアルにより、初期投資、容量の追加を含む中間費用、ハードウェアとソフトウェア

システム構成図



ジヤトコが構築したバックアップ体制。サーバー基盤ごとに分けてProxy Serverを立てた



お問い合わせ

兼松エレクトロニクス株式会社

〒104-8338 東京都中央区京橋2-13-10

Email. kel_veeam@ml.kel.co.jp

<https://www.kel.co.jp/>